

我々歯科技工士は天然歯の個々の特徴、形態を十分に理解し把握した上で、更に咬合も考慮して補綴物を作製している。特に臼歯は咬合との関係が重要であるにもかかわらず、近年、咬合より審美性を重視した補綴物を見ることが多い。私は『補綴物は咬合の再構築であり、その中に審美性を取り込むべき』と考えています。

私は恒に形態修正が上手くなりたいと考えていますが、皆さんは歯科技工の基礎である歯型彫刻が上手くなるにはどうすれば良いと考えているのでしょうか？ 私は歯科技工士学校の学生時代に一つの形態に絞って形態修正を行った経験があります。一つの形態修正ができれば他の部位も簡単にできると思ったからです。確かにそれが無駄になったとは思いませんが、一つの形態をマスターしたからと言って、他の部位の形態修正が上手くいくわけではありません。上手く歯型彫刻ができない理由に何か足りないものがあつたからです。しかし、当時はそれが明確でなかった。全く同じ考えではないかもしれませんが、補綴物作製時に置き換えてみると、作製する部位のみを考えて、対合歯や残存歯との関係を取り入れなければ良い補綴物にはなりません。そこには上下顎や左右側、歯牙グループの関連性について知ることが大切です。要はどうすれば効率よく精度の良い歯型彫刻ができるか？更に、咬合を考慮した形態修正はどうすればよいのか？今回はこの二つの点に絞り上下顎第一大臼歯の形態について講義と実習を行う予定です。